

令和 4 年 6 月 19 日現在

機関番号：27103

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2019～2021

課題番号：19K00437

研究課題名(和文)サイオン修道院の書物生産と対抗宗教改革

研究課題名(英文)Counter-Reformation and Book Production in Syon Abbey

研究代表者

向井 剛(向井毅)(Mukai, Tsuyoshi)

福岡女子大学・公私立大学の部局等・学長

研究者番号：40136627

交付決定額(研究期間全体):(直接経費) 1,900,000円

研究成果の概要(和文):4折本で単独出版されていたHouseholdersがWerk of PreparacionやDaily Exercise等と合冊され、8折本として出版され続けたが、作品間に相互参照する箇所があり、ウィットフォードは当初から合冊を想定していた。

修道院内の実践が解散後も求められた背景として、改革混乱期にあって、家庭や地域の中心的な俗人が、精神的導き手になる機運が生まれていた。ウィットフォードは国王不支持で仲間が処刑される姿を見るが、不服従を貫き、審問委員から要注意人物と断じられたことを考えれば、1537年の各版は俗人を対象とする「家政の書」の形態を装うが、対抗宗教改革の象徴的な書となっていた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究の独自性は、修道院解散前後の宗教的状况を浮き彫りにする上で、修道士ウィットフォードから適切な著作物を選び出せた点、及びその出版史の分析を通して著者の思想、出版者の思惑、改革混乱期における修道院内の実践がなお好意的に受容された様を解明できた点である。

Werke of Preparacionにあっては、異端的言説の改訂問題が、Work for Householdersにあっては、レッドマンやウェイランドを中心に同時に複数の印刷家が出版する特異性があった。自ら「サイオンの老いた惨めな男」と称し、解散命令の使者に抗う修道士の著作物が持つ、時代的意味とサイオンの出版メディア活用を明らかにできた。

研究成果の概要(英文):Householders, which had been published independently in quarto, was combined with Werk of Preparacion, etc., and continued to be published in an affordable octavo with two or three parts. The cross-references, which can be found between these separate works, imply Whitford envisaged a combined edition from the outset.

Regarding the reason why the religious practices of the monasteries were still sought after the Dissolution, we can presume that, in the turmoil of the Reformation, there was an opportunity for the family head or the chief layman in the community could become a spiritual guide. Whitford witnessed the execution of his companion Reynolds for disapproval of the king's remarriage, but remained disobedient and was declared a dangerous person by the Inquisitors. In view of this author's biography, each of 1537 editions by Redman and Waylande, which were disguised in the form of a "housekeeping book" aimed at the seculars, were read as a symbolic book of the Counter-Reformation.

研究分野：英国初期印刷本研究

キーワード：サイオン修道院 ウィットフォード 初期印刷本 書物出版史 対抗宗教改革

1. 研究開始当初の背景

サイオン・アベイ研究は、I. Doyle (1990)を先駆として、J. Rodes (1993)と V. Gillespie (2000)等により深められ、現在、宗教散文と出版活動の関連において、最も精力的に研究が展開されている領域であると言える。その理由として、

設立に王室(ヘンリー5世)の支援を受けたサイオン・アベイは、カルトジオ会とともに、教義と修道院内の実践が正統(Orthodoxy)で、かつ多くの平信徒から改革後も支持を受けたことに対する学問的関心、

修道院内向けに書き下ろされた「指導書」(‘in-house book’)が、新しく誕生した活版印刷の技術と出会い、修道院の外に向け一般化が試みられるサイオンの先進的出版戦略への関心、

を挙げることが出来る。

本研究課題は、サイオンの書物生産の晩期に最も活躍した修道士 R. ウィットフォードの書物に焦点を当て、これらの書が宗教改革(修道院解散)を生き延び、解散後もなお書としての生命を保ち、受容される経緯を解明することである。

「問い」に学問的価値があるのは、既述のとおり、本研究が対象とするウィットフォードの書に各々が固有に持つ書物の特徴を明確に立て得たこと、そしてその分析を通して、晩期の出版活動を時代の社会文化的状況に照らして記述できるという予測が立つ点である。こうした観点からの詳細な宗教散文出版史の研究は、これまでのところ十分になされていないと考えられる。

2. 研究の目的

当初の研究目的は次の通りであった。

本研究の独自性は、上述のとおり、宗教改革つまり修道院解散前後の宗教的文化状況を浮き彫りにするうえで、適切な特色を持つ書物3点をウィットフォードの著作物から選びだすことが出来た点、及びその出版史の分析を通して著者の思想、出版者の思惑、読み手の書物受容を観察することが可能である、と見る視点である。

つまり、*Werke of Preparacion* (1531, 1537)にあっては、異端とされる言説の改訂問題が、*Golden Epistle* (1530, 1531, 1585)にあっては、改革後の1585年にも出版が行われた事実が、そして *Work for Householders* (1530, 1531, 1533, 1537)にあっては、レッドマンやウェイランドを中心に4度とも同時に複数の印刷家に出版を依頼する特異性が、それぞれリサーチの目的となる。これにより、自ら「サイオンの老いた惨めな男(‘old wretch of Syon’)」と称し、最後まで解散命令の使者に抵抗したウィットフォードの著作物が持つ時代的意味とサイオン・アベイの出版メディア活用の戦略を、読み取ることが可能となる。

しかし、次の「研究方法」の欄に記載する通り、コロナ禍のために現地調査が実現できず、当初の目的を達成することが出来ないままに、変更を加えながら研究を続けざるを得なかった。

3. 研究の方法

- (1) 研究の初年にあたる2019年度は、調査を始めるにあたり対象となる3作品 *Work for Householders*、*Golden Epistle*、*Werke of Preparacion* の出版史および各コピーに関する従来の記述を確認・整理することから始めた。その結果、これらの作品はそれぞれ単独で出版されたケース、2つ(及びその他の作品)が組み合わせられて出版されたケース、そして3作品(とその他)がまとめられた上で *Work for Householders* の標題で作品集として出版されるケース、があることが判明した。加えて、*Dayly exercice and expeyence of deathe* や *Preparation for Communinon*、*Crosrowe or ABC* などの標題を持つ作品との組み合わせも問題となり、1530年から1540年にかけてのウィットフォードの著作物出版は、当初の予想を超えて複雑であり、作品間の関係性(つまり、いかなる作品と一緒に、いかなる順序で編集されるか。その後、いずれの作品が削除され、あるいは付加されるか。そして、それはいかなる動機か)や出版史の詳細な確認と整理・記述が必要になった。

上記の理由から、当初2019年度に予定していた *Werke of Preparacion* の2つの版の比較校合の作業は手控え、研究遂行の手順を改めた上で、実施することにした。

また、PDFによる入手不可能な作品コピーを観察・記述するために、当初予定し

ていた該当図書館の訪問調査は、新型コロナウイルス蔓延のために延期をせざるを得なくなった。

- (2) ウィットフォード自身の *Werke of Preparacion* (1531, 1537) と聖ベルナルド著の翻訳作品 *Golden Epistle* (1530, 1531, 1585) に焦点を当てて、書物のつくりと本文比較を行い、異端とされる言説の改訂問題、各作品の特色と受容、意図された購入者・読者層に考察を加える。

また、*Golden Epistle* は、修道院解散令前に2度(1530, 1531)、そしてエリザベス女王の治世に1度(1585)出版される。第3版には、修道院解散後に「各地に離散したサイオン修道士の協力を得た」と謳う序文があり、英国国教会確立期における本書の書物の受容ぶりを解明すべく、先行の1531年ワイアー版と本文の比較を行う作業を進めた。しかし、入手できたPDFは不完全であり、現地調査が欠かせないが、コロナ禍のため実施が出来ず。調査が半ばで終わることになった。

- (3) 上述の通り、コロナ禍のため海外調査が不可能になり、いずれの調査も半ばで中断せざるを得ない状況になった。これを受けて、本研究の暫定的なまとめとして、計画していた、EEBOで入手可能な *Work for Householdors* (1530, 1531, 1533, 1537) について、いかなる種類の書物が一緒になって編集されたかを中心に調査を行うこととした。なかでも、宗教改革の最中及び改革後も、修道院が取り潰されたにもかかわらず、なおサイオン修道院の教えが読者を得て、途切れることなく出版され続けたことを示す、2種の1537年版 (Redman と Wayland) を調査の対象とした。

以上のごとく、海外調査に基づく正確な記述が現況では難しいことから、認められた科学研究費のうち海外調査分を返納(190万円の内、102万円余)し、一旦、研究は国内調査の範囲にとどめることとする。

4. 研究成果

コロナ禍のために、EEBOのみで入手可能なコピーの比較調査にとどまることから、本欄の研究成果を *Work for Householdors* を中心に記述する。

- (1) 国王至上法の成立とともにサイオン修道院の出版物への検閲が始まったと考えられる1534年頃から、サイオン修道院に解散令が出された1539年の間に編集・再版された第2版 *Werke of Preparacion* (1537) には、著者ウィットフォードが書き下ろした序文があり、そこには不適切な表現、誤り、異端的内容を含む自戒が明言されていた。

事実、第2版の本文には、この序文に対応した改訂が種々ほどこされていることを突き止めることができた。サイオンの名や著名なウィットフォードの名を控える方が、宗教改革の波を潜り抜けることができたはずであろうが、敢えてそうした戦略的編集を避け、主義を貫いたところに、「対抗宗教改革」の試みとして、同修道院の教えと日々の修練の正当性への強い意志を見ることができる。

- (2) 標題 *Work for Householdors* の出版史と作品の組み合わせは次のとおりである。

1530? A werke for housholders, Quarto (R. Redman) STC 25421.8

1530 A werke for housholders, Quarto (W. de Worde) STC 25422 [Newly corrected and printed agayne with an addition of policy from Bernardus Silvestris]

1531? A werke for housholders, Quarto (Peter Treueris) STC 25422.3

1531 A werke for housholders, Octavo (R. Redman) STC 25422.5 [intended to be part 2 of STC 25412]

1531? The werk for housholders (+ A werke of preparacion; golden epistle; alphabete or a crosrowe called an A. B. C), 2 pts. Octavo (R. Redman) STC 25412

1533 A werke for housholders, Quarto (W. de Worde) STC 25423

1537 The werk for housholders, Octavo (R. Redman) STC 25425 [intended to

be part 3 of STC 25413]

1537? The werk for housholders (+A werke of preparacion; golden epistle; alphabete or a crosrowe called an A. B. C; + A dayly excercyse), 3 pts. Octavo (R. Redman) STC 25413

1537 A werke for housholders, Octavo (J. Waylande) STC 25425.5 [intended to be part 3 of STC 25413.5]

1537 The werk for housholders (+A werke of preparacion; golden epistle; alphabete or a crosrowe; A dayly excercyse), 3 pts. Octavo (J. Waylande) STC 25413.5 [additional prefaces, with title]

(3) 上記の出版史に関して、現時点で、次の4点が指摘できる。

元々、独立して、しかも4折本で出版されていた *Householders* が、*Werk of Preparacion* や *Daily Exercise and Experyence of Dethe* と一緒に合冊され、手ごろな8折本として2部ないしは3部仕立てで出版されたこと

一つに束ね、製本された、これらの別個の作品間に、相互に参照しあう箇所があり、ウィットフォードは当初から合冊にすることを想定していたと考えられること
Redman版とWayland版の間には、序文と本文において異同が観察されること
修道院内の宗教実践がなお求められた背景として、宗教改革の混乱期にあつて、*Householders* が教える通り、家庭の主人或いは地域の中心的な俗人が、精神的(宗教的)な導き手になる機運が誕生していたこと

ウィットフォードは修道士仲間のレイノルズが国王不支持で処刑される姿を目の当たりにするが、彼もまた不服従を貫き、審問委員から要注意人物と断じられた事実がある。従って、1537年版は、俗人を対象とする「家政の書」の形態をとりながら、対抗宗教改革の象徴的な一書と考えることができる。

本研究は、まだ道半ばであり、コロナ禍が明けた段階で現存コピーを調査し、精確な記述が求められる。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計0件

〔学会発表〕 計3件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 0件）

1. 発表者名 向井 剛
2. 発表標題 「ド・ウォードの重要性を予見していた野口教授」（シンポジウム「Malory in Japan 日本では近年どのようなMalory研究がなされてきたか」
3. 学会等名 国際アーサー王学会日本支部第33回年次大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 向井 剛
2. 発表標題 le morte darthurーためらう奥書題
3. 学会等名 日本英文学会（第94回全国大会シンポジウム）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 向井 剛
2. 発表標題 著者意識・版權から英国書物出版の歴史を概観する
3. 学会等名 大妻女子大学 草稿・テキスト研究所 2021 年度シンポジウム
4. 発表年 2022年

〔図書〕 計1件

1. 著者名 向井 剛	4. 発行年 2021年
2. 出版社 勉誠出版	5. 総ページ数 250
3. 書名 英国初期印刷本研究への誘い	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
--	---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------